

9月の某日、とある御宅の柿の木が突然倒れたという話を聞き、見に行ってみました。話を聞いてみると風も無いのに突然道路の方に倒れたというのです。幸い人がいなかったため大事に至らなかったものの非常に驚いた様子でした。柿の実も、葉の大きさ・色も正常、なのになぜ？というのが最初の質問でした。原因はすぐわかりました。ベッコウタケというキノコでした。

私達が普段食べているナメコやシイタケ、外で見かけるものを含めてキノコ類は皆、木を栄養源とし木を腐らせていきます。木にとっては大変迷惑な存在なのです。写真左はその御宅で撮った切り株の様子ですが、よく見るとうっすらと白くなっているのがわかります。これはキノコの菌糸群で、白色をしてるので分類上、白色腐朽菌に入ります。

普通はキノコ菌が木の傷口から入り、長い時間をかけて腐朽していくため幹芯部分が空洞化しその割合が50%を超えると倒木しやすくなるという定説もあります。ところがその空洞が見当たらず、珍しいケースです。

考えられたのは2つ。1つめは「柿は折れやすい」という言い伝え。私がよく聞かされた言葉でした。実際、木

第21回 キノコにご注意！



町内在住の樹木医

尾形政幸先生の花は桜木

は堅いのですが粘りが無い分曲げには弱いようです。2つめはベッコウタケというキノコ。繁殖力が強い短時間で蔓延し細胞をスポンジ状に弱くしてしまつたということです。二股になつたもう片方も同じ診断を下しました(写真右)。

堤防の桜も最近ではキノコが目立つようになり直結する散歩中の皆さんはこ



柿の倒木例 2022.9

倒れた方の木

ベッコウタケ

材料 2個分

- ・ホットケーキミックス.....60g
- ・卵.....1/2個
- ・牛乳.....50cc
- ・干しぶどう.....20g
- ・小松菜.....30g

作り方

- ①卵はといておく。
- ②干しぶどうはぬるま湯にひたし、しばっておく。
- ③小松菜は歯ごたえを残すように1cmぐらいに切る。
- ④ボールにホットケーキミックス、卵、牛乳、干しぶどう、小松菜を入れて混ぜ、カップに入れる。
- ⑤前もって温めた蒸し器の中に④を入れ、12～15分蒸す。竹串をさして生地がついてこなければ出来上がり。



写真は1人分

【ひとり分栄養価】
エネルギー:177kcal 塩分:0.4g

調理担当ヘルスメイトより
ワンポイント
おやつ、朝食にもおすすめです。冬野菜のおいしくなる季節です。小松菜だけではなくチヂミ菜などの青菜を使ってもおいしいです。季節の果物といっしょにどうぞ。

高橋 悦子さん(上谷一區)



青菜入り蒸しパン

令和4年度大河原町食育スローガン
「家族で野菜のおかずをひと皿増やし」

Mayor's column
さくら並木
-町長コラム-

祝『スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰 2022』受賞
~千本桜スポーツパークを活用したWell-Beingなまちづくり~

大河原町長 齋 清志

去る11月18日に東京都内の会場において、スポーツ庁主催による『スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2022』が開催されました。そして、本町の白石川右岸河川敷等整備事業の『千本桜スポーツパークを活用したWell-Being(心身ともに健康で幸福な状態)なまちづくりプロジェクト』が北海道・東北地方で唯一の受賞となりました。今後の取り組みの励みになると同時に感謝の気持ちで一杯です。

この表彰は、全国を先導する優良な『スポーツ・健康まちづくり』に取り組み自治体のアイデアを表彰するとともに、広く全国へ周知することで各地のスポーツを活用した特色あるまちづくりを推進しているものです。この度の受賞は、健康増進・スポーツツーリズムから地方創生・まちづくりへの掛け橋として人と地域をつなぐことに加え、一目千本桜の新たな賑わいの創出や広域連携の要としての役割を担うなどの多面的な効果が評価されたものと受け止めています。

今後の目標としては、白石川右岸河川敷のスポーツパーク施設の活用のほか、堤内地(田んぼ側)の整備への着手となります。本町の持つ拠点性・利便性・先進性といった特徴



▲表彰式に出席する町長(後列左)

を存分に活かした実践的な取り組みとして、住民参加や民間活力の導入にも期待を寄せています。そして、健康で元気なイメージを発信しながら、交流人口・関係人口の拡大につなげてまいりたいと考えています。

また、継続的なスポーツを活用したまちづくりとしての取り組みを確保できる体制として、スポーツの振興を町長部局に移管するとともに組織機構の見直しを図りながら、『スポーツまちづくり推進課』の新設の準備を進めています。行政・住民・民間・スポーツ関連団体が一体となり、心身ともに健康で幸福な状態が維持できる地域社会の実現に向けた新たな挑戦のスタートとしたいと思います。



▲室伏広治スポーツ庁長官(左)から表彰状を手渡される町長(右)

行政に対しては、人生そのものと言える健康・福祉・子育て・教育・雇用といった『住民福祉の増進を図る』ことが常に求められています。そして、これからのまちづくりの視点では、変化への対応力・多様性への受容力・豊かな創造力など、前例から脱却した取り組みが必要不可欠な条件となるはず。本町での取り組みがモデル事業となれば幸いです。

この本町の『スポーツを活用したまちづくり』はまだ始まったばかりですが、社会的包摂の推進や誰一人取り残さない『取り組みと、さらにはウィズコロナへの対応のためにも、なご意識の大切さを痛感することです。今回の受賞に甘んじることなく、『一歩先を行く元気なまちづくり』に邁進してまいれる所存です。

(11月21日記)